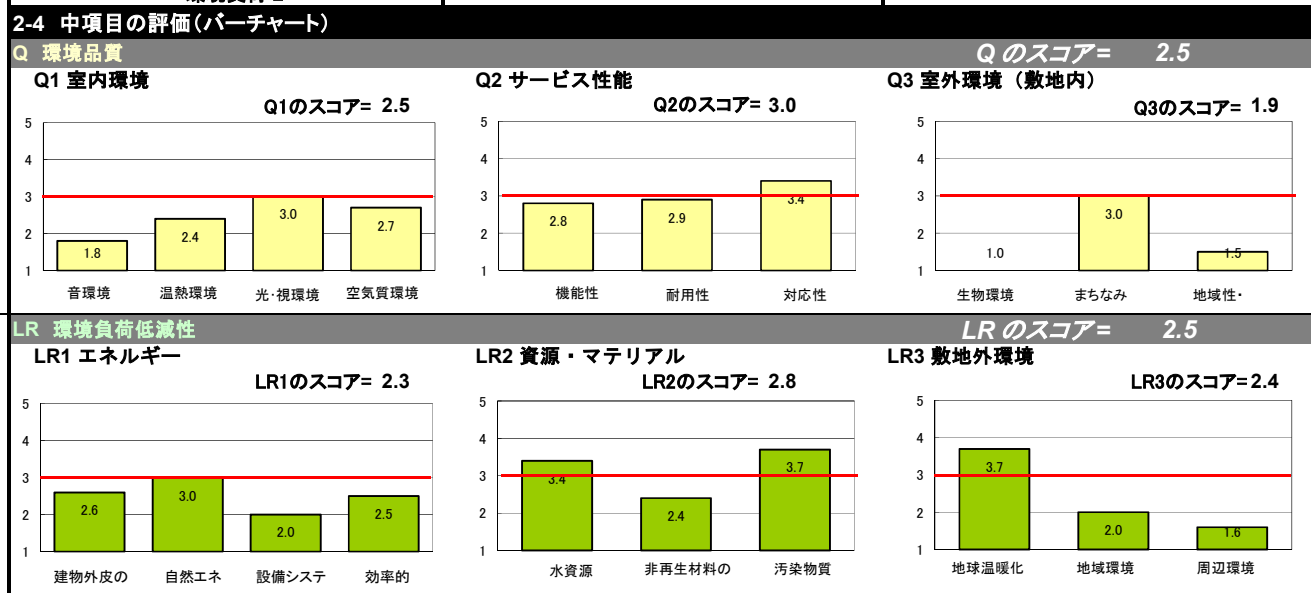
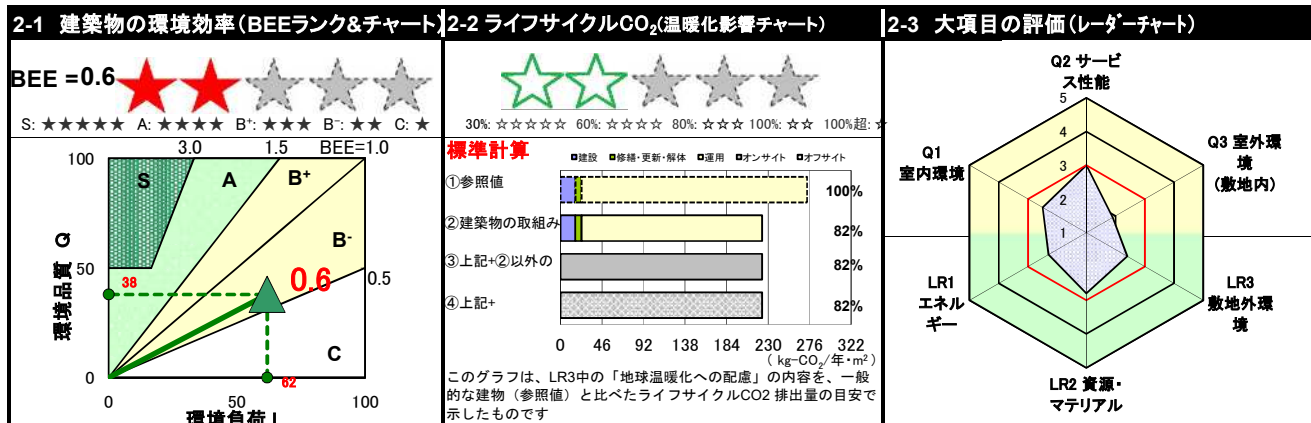


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)篠ヶ瀬町複合店舗 新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市篠ヶ瀬町1079番1	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2025年3月4日
敷地面積	2,904 m ²	作成者	株式会社飯田組一級建築士事
建築面積	1,079 m ²	確認日	2025年3月5日
延床面積	2,092 m ²	確認者	株式会社飯田組一級建築士事



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・各室毎調整可能である。マルチヒートポンプ方式 ・仕上材等の建材は、F☆☆☆☆を使用している。 ・館内は禁煙である。	・売場の天井高=3.7m/3.5m(1F/2F)である。 ・階高は4.45mである。 ・省水型便器を採用している。	・景観条例に準じている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・BPI=0.98、BEI=0.8である。	・省水型便器を採用している。 ・ガラス採用し、発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	・駐輪場・駐車場の数・導入路・配置等、配慮している。 ・隣家への騒音対策として防音パネルを設けている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要										
建物名称	(仮称)篠ヶ瀬町複合店舗 新築工事				BEE	0.6	BEEランク	B-	★★	
2. 重点項目への取組み度										
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価			
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	2.7	/5	    				がんばろう			
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.8	/5	    				がんばろう			
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.9	/5	    				がんばろう			
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	1.5	/5	    				がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満		
3. 重点項目についての環境配慮概要										
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目					
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)					得点		2.7			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)				Q-1 2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	
					Q-1 3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備	
						3.2	3.2.1	③	昼光制御	
					Q-2 2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
							2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
							2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
							2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
							2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
							2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地周辺を緑化し、周辺環境に配慮した。				Q-3 1			⑤	生物環境の保全と創出	
				3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上		
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明の採用することで、照明器具の長寿命化を図った。				LR-1 1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制		
				2			⑧	自然エネルギー利用		
				3			⑨	設備システムの高効率化		
				4	4.1		⑩	モニタリング		
					4.2		⑩	運用管理体制		
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型の小便・大便器を採用。				LR-2 1	1.1		⑪	節水		
					1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無		
						1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無		
				2	2.1		⑫	材料使用量の削減		
					2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用		
					2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
					2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
					2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材		
					2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み		
				3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用		
					3.2	3.2.1	⑬	消火剤		
						3.2.2	⑬	断熱材		
						3.2.3	⑬	冷媒		
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮隣家への騒音対策として防音パネルを計画した。				LR-3 1			⑭	地球温暖化への配慮		
				2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善		
”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)					得点		2.8			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)				Q-2 2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
							2.1.2	⑯	免震・制振性能	
						2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備	
							2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
							2.4.3	⑰	電気設備	
							2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
							2.4.5	⑰	通信・情報設備	
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)					得点		2.9			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑階高にゆとりをもたせ、室空間の自由度を確保した。				Q-2 1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
					3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり	
							3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ	
					Q-3 3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上	
■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮) ㉒エントランス前に庇を計画し、外部との連続性を確保した。										
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点		1.5			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ㉓建物の形状や色彩を周辺環境との調和を図った。				Q-3 1			⑤	生物環境の保全と創出	
					2			㉓	まちなみ景観への配慮	
					3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)				LR-2 2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材	
					LR-3 2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	